

もんじゅ安全・改革検証委員会（第1回）

議事要点（案）

1. 開催日時：平成25年12月16日（月）9：30～12：00

2. 開催場所：敦賀本部 アトムホール 2F

3. 出席委員（敬称略）（五十音順）：

委員長	阿部 博之
委員長代理	宮野 廣
委員	宇多川 隆
委員	小澤 守
委員	橋詰 武宏

以上5名

4. 議事概要

「もんじゅ」改革について、以下の議論があった。

○改革の成果を定量的に示し、自己評価を行うこと

- ・実績をどう定量評価するか提案いただきたい、検証委員会はその評価することで見える化を行う。（宮野委員長代理）
- ・検証委員会のゴールが定まっていない。進捗を図る基準をクリアにし、目標を明確にして改革を展開することが重要（宇多川委員）
- ・点検数にしても何点であれば適正か不明確（小澤委員、宇多川委員）
- ・時間軸を決め、職員が共有する物差しが必要（宇多川委員）
- ・機構が自己評価を実施し検証委員会に諮ること（阿部委員長）

○改革の基本が「安全文化の醸成」である。進捗が外部に見えるようにすることが重要

- ・理事長が毎週、現場で対話を続けていることは大変だが原子力安全への意識の共有、すなわち「安全文化」を定着させるには重要。途中経過を国民に示していただきたい。それが国民の理解を得る第一歩。（宮野委員長代理）

○改革項目が多すぎないか？「もんじゅ」のコンセプトをスリム化し現場に余裕を与えることが重要。（橋詰委員）

○危機感を共有することが重要

- ・組織的活動がバラバラであったことが保守管理不備の原因なので、ひとつの意識を共有することが重要（小澤委員）

- ・一人一人がトップの意向を汲んで危機感を共有していることが重要。ただし、経営が健全な形の正しいデータを示して、現場の人が危機感を醸成することが必要。(宇多川委員)
- 100%運転経験がないことへの備えが重要 (小澤委員)
- 技術開発協力員としての出向の年制限がある中で協力会社等との連携強化をどのように行っていくか検討すべき (阿部委員長)
- 国との関係の中で経費削減が第一条件の場合もあるが、経費削減によって事故に至る場合もある (阿部委員長)
- 電力会社の経験を活かすのはよいが、福島事故を発生させたのは電力の運営でもあるので、峻別することも必要 (阿部委員長)
- 安全について日々努力している機構職員の人事考課制度も重要な課題 (阿部委員長)
- 設備の改革は実施しないのか? (橋詰委員)
 - (機構回答) 設備についても改善できることは行うが、原型炉の役割はそもそも設計を実証することも含まれる。よって、安全に対し決定的に重要であれば踏み込まざるを得ないが、改革としての実施は考えていない。
- 「もんじゅ」は、設計から運転まで全て独自で実施する炉であり、一番大変な時期を自分たちで乗り切る最中であると思っている。(小澤委員)
- 福島事故の教訓を活かすことを考慮した方が良い。(阿部委員長)
- 化学プラントでも小さなトラブルが頻発し始めているので参考にしてはどうか。(小澤委員)
- 経年劣化も考慮した運転計画を検討して欲しい。(阿部委員長)
 - 長期停止の影響は大きく、慎重に対応すべき (宮野委員)
- 小集団活動の積み重ねが風土構築に貢献している。トヨタなど民間企業の活動も参考にしてはどうか。(宇多川委員)
 - GE の「インテグリティ」を武器としたトップダウンに、トヨタのボトムアップを加えて活動が強みとなっている。(宮野委員)
- 安全文化の醸成活動では、現場における現実的な対応が重要 (橋詰委員、宇多川委員)
- 機構独自の安全文化を作り出し、全職員で共有して欲しい。模範となるものを作っていただき、共有いただきたい。(阿部委員長)

以上

もんじゅ安全・改革検証委員会委員

委員長 阿部 博之 科学技術振興機構顧問

委員 宇多川 隆 福井県立大学理事・副学長

委員 大場 恭子 東京工業大学特任准教授

委員 小澤 守 関西大学社会安全学部教授 学部長

委員 橋詰 武宏 ジャーナリスト

委員 宮野 廣 法政大学大学院教授

委員 和気 洋子 慶應義塾大学名誉教授

(敬称略)